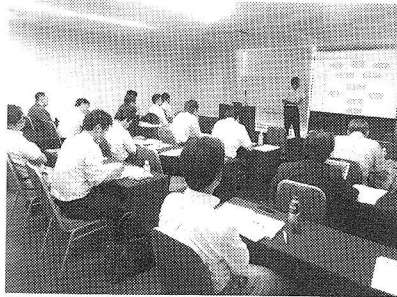


農機国際規格のセミナー開催

ヴィッツ ISO や機能安全規格など紹介

(株)ヴィッツ＝名古屋市中区栄2-13-1・80
52(220)1218
9」をTKP札幌駅カンファレンスセンターで開催した(写真)。

同社は車載制御等の組込ソフトウェア開発を行う企業で現在、同グループを中核に苫小牧高専や北大、はこだて未来大学と共に経産省の戦略的基盤技術高度化支援事業(平成26(28年)に於いて「農業機械のさらなる高度化と海外進出に資する次世代電子制御ソフトウェア基盤の開発」を行っている。農業機械通信



規格ISO11783や農機向けの機能安全規格ISO25119に対応したシステムとして電子制御化・営農管理システムとの連携・安全性を確保かつ低コスト化した農機向けプラットフォームの開発や次世代向け要素技術の研究開発を行っており、今回はそれに関連した基本概念や国際規格等について説明したものの。冒頭、アドバイザーを務める中央農研の元林浩太主任研究員が挨拶し「ISO-BUSは、国内

規格。一方、機能安全は、おそらく近い将来これに対応しないと売れなくなる時代が必ず来る。海外の主力メーカーは対応に向けて積極的に取り組んでいる。国内でのこうした取組は心強い。標準化に則った開発は競争力強化に繋がると信じている」と述べた。

続いて「乗遅れるなり前にならなつつある機能安全とは？」について(株)アトリエの水口大知氏が講演し「機能安全とは、ある機能によりリスクを軽減する安全機能と、そうした機能が定められた期間や全ての定められた条件下で、ハードウェアやソフトウェアの故障や設計ミス等を回避し、規定の安全機能が働くかの

み合わせが可能となり、各社は機能などの部分に特化した開発で競争する方向にある。日本固有の使い方などについてAEFなどで声を上げるべき。その為には企業の垣根を超えて協力できる部分は協力すべき」と述べた。

続いて「国際的に当たるとして、トラクタや自走式の乗用機械、搭載／半搭載／牽引される機械、地方自治体で使用する機器で、ハードウェアやソフトウェアの機能安全規格であることや、規格の説明。そして高度化支援事業を説明し会は終了した。

水準(SIL1~4)で規定される安全度から成る。リスクアセスメント(リスク分析)や安全ライフサイクル(企画から廃棄までの安全確保を行う)リスク低減を行うのは必須だ。その中で自己診断不能な危険な状態における故障を無くす」などとした。

その後の講演ではISO25119の対象